分類の設定

- 分類について （1 ページ）
- 分類の前提条件 （2 ページ）
- 分類のガイドラインと制約事項 （2 ページ）
- トラフィック クラスの設定 （5 ページ）
- 分類設定の確認 （21 ページ）
- 分類の設定例 （21 ページ）

分類について

分類とは、パケットをトラフィック クラスに振り分けることです。指定した分類済みトラフィックに対して特定のアクション（ポリシングやマーク ダウンなど）を実行するようにデバイスを設定します。

パケットの特性を次の表に示す分類基準と照合することによって、各トラフィック クラスを表すクラス マップを作成できます。

表 *1*：分類基準

分類基準	説明
CoS	IEEE 802.1Q ヘッダー内のサービス クラス（CoS）フィールド。
IP precedence	IP ヘッダーのタイプ オブ サービス（ToS）バイト内部の優先順位値。
Diffserv コード ポイント（DSCP）	IP ヘッダーの DIffServ フィールド内部の DSCP 値。
ACL	IP、IPv6、または MAC ACL 名
パケット長	レイヤ 3 パケット長のサイズ範囲

分類基準	説明
IP RTP	Real-time Transport Protocol（RTP）を使用しているアプリケーションを、UDP ポート番号範囲によって識別します。

複数の一致基準を指定することも、特定の基準について照合しないようにすることも、一部または全部の基準を照合することによってトラフィック クラスを決定することもできます。

（注） ただし、ACL について照合する場合は、パケット長を除く他の一致基準を match-all クラス内で指定することはできません。match-any クラス内では、ACL およびその他の一致基準について照合できます。

QoS ポリシー マップ内でどのクラスにも一致しないトラフィックは、class-default と呼ばれるデフォルトのトラフィック クラスに割り当てられます。QoS ポリシー マップ内で class-default を参照することで、この一致しないトラフィックを選択できます。

同じタイプのトラフィックを処理する別のインターフェイスのQoSポリシーを定義する場合、クラス マップを再利用できます。

分類の前提条件

分類の前提条件は、次のとおりです。

- モジュラ QoS CLI について理解している。
- デバイスにログインしている。

分類のガイドラインと制約事項

分類の設定時のガイドラインと制約事項は次のとおりです。

- QoSポリシーは、フラグメント化されたパケットには有効ではありません。フラグメント化されたパケットは、デフォルトキューに転送されます。
- キーワードが付いている **show** コマンドはサポートされていません。 **internal**
- PVLANはPVLAN QoSをサポートしません。
- **destination interface sup-eth0** CLI コマンドを設定すると、次のシステム ログ メッセージが表示されます。SUP に対するスパン宛先を有効にすると、入力 QoS 分類に影響します。
- VXLAN の場合、次の Cisco Nexus プラットフォームは、ポートと VLAN の両方で出力ポリシーとしてホスト方向（カプセル化解除パス）へのトラフィックの QoS ポリシーをサポートします。

- Cisco Nexus 9300 および 9500 プラットフォーム スイッチ。
- Cisco Nexus 9200 および 9300-EX プラットフォーム スイッチ Cisco Nexus 93180YC-EX および 93108TC-EX スイッチおよび Cisco Nexus 9732C-EX ライン カード。
- 上記は、Cisco Nexus 9230QC、9272Q、9232C、9236C、および 92300YC スイッチ、Cisco Nexus 9160YC-X スイッチのハードウェアではサポートされていません。

- VXLAN の場合、次の Cisco Nexus プラットフォームは、アップリンク インターフェイスの入力ポリシーとして、ネットワークからアクセス方向（カプセル化解除パス）へのトラフィックの QoS ポリシーをサポートしません。
  - Cisco Nexus 9300 および 9500 プラットフォーム スイッチ。
  - Cisco Nexus 9200 および 9300-EX プラットフォームスイッチおよび Cisco Nexus 93180YC-EX および 93108TC-EX スイッチ、および Cisco Nexus 9732C-EX ライン カード。
  - Cisco Nexus 9230QC、9272Q、9232C、9236C、および 92300YC スイッチ、および Cisco Nexus 9160YC-X スイッチ。

- QoS 分類は、VXLAN トラフィックを入力する FEX インターフェイスではサポートされません。この制限は、すべての Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチに適用されます。
- Cisco Nexus 9300-EX プラットフォーム スイッチの DSCP、CoS、または優先順位に基づいてパケットを照合すると、IPv4（シングル幅は 1 つのエントリ）と IPv6（ダブル幅は 2 つのエントリ）の両方の TCAM エントリがハードウェアにインストールされます。たとえば、DSCP 4 に一致する場合、ハードウェアに 3 つのエントリがインストールされます。1 つは IPv4、2 つは IPv6 です。
- クラス マップ内で指定できる一致基準の数は最大 1,024 個です。
- 1 つのポリシー マップで使用するために設定できるクラスの数は最大 128 個です。
- ACL について照合する際、それ以外に指定できる一致基準は、match-all クラス内のレイヤ 3 パケット長だけです。
- コマンドの **match-all** オプションはサポートされていません。**class-map type qos match-all** このコマンドの一致基準は、コマンドと同じになります。**class-map type qos match-any** コマンドの結果は、コマンドと同じです。**class-map type qos match-allclass-map type qos match-any**
- オプションは CoPP クラスマップではサポートされず、常にデフォルトのオプションになります。**match-all match-any**
- レイヤ 2 ポート上のトラフィックは、着信パケットのポート ポリシーまたは VLAN ポリシーのいずれかに基づいて分類できます（ただし両方に基づいて分類することはできません）。両方のポリシーが存在する場合、デバイスはポート ポリシーに基づいて動作し、VLAN ポリシーを無視します。

- Cisco Nexus ファブリック エクステンダ（FEX）が接続され、使用されている場合は、データ トラフィックを CoS 値 7 でマークしないでください。CoS 7 は、ファブリック エクステンダを通過する制御トラフィック用に予約されています。
- スイッチから FEX への制御トラフィック（制御フレーム）は、CoS 値 7 でマークされ、2344 バイトのジャンボ MTU フレーム サイズに制限されます。
- FEX QoS ポリシーは FEX ホスト インターフェイス（HIF）をサポートします。
  - QoS TCAM カービングは、ALE（アプリケーション リーフ エンジン）対応スイッチでサポートされます。
  - システムレベルのポリシーのみがサポートされます。
  - CoS での照合がサポートされています。
  - QoS グループの一致がサポートされます。
- COS 7 のスイッチ スーパーバイザから FEX ホストへのジャンボ ping（2400 以上の MTU）は、FEX の制御キューが 2240 に制限された MTU をサポートするため、失敗します。
- QoS 分類ポリシーは、レイヤ 2 スイッチ ポートのシステム QoS ではサポートされません。ただし、CoS/DSCP に基づいて着信トラフィックを分類し、異なるキューにマッピングするように QoS ポリシーを設定できます。QoS ポリシーは、分類が必要なすべてのインターフェイスに適用する必要があります。
- MAC ベースの ACL がクラス マップで一致する QoS ポリシーは、IPv6 トラフィックでは機能しません。QoS の場合、IPv6 トラフィックは、MAC アドレスではなく IPv6 アドレスに基づいて照合する必要があります。
- ベスト プラクティスとして、アクセス VLAN が音声 VLAN と同じ音声 VLAN設定を使用しないでください。

  代替アプローチは次のとおりです。
  - 音声トラフィックに個別の dot1p タグ（cos）値が必要ない場合は、コマンドを使用します。**switchport voice vlan untagged**

    ```
    switch(config)# interface ethernet 1/1
    switch(config-if)# switchport access vlan 20
    switch(config-if)# switchport voice vlan untagged
    ```
  - 音声トラフィックに別の cos 値が必要な場合は、コマンドを使用します。**switchport voice vlan dot1p**

    ```
    switch(config)# interface ethernet 1/1
    switch(config-if)# switchport access vlan 20
    switch(config-if)# switchport voice vlan dot1p
    ```
- 以下のライン カードを搭載した Cisco Nexus 9504 および Cisco Nexus 9508 スイッチは 以下のフラグメントを持つ QoS 一致 ACLをサポートしません。
  - Cisco Nexus 96136YC-R

- Cisco Nexus 9636C-RX
- Cisco Nexus 9636Q-R
- Cisco Nexus 9636C-R

- トランジット ノード上のラベルが NULL の MPLS パケットは、その NULL ラベル EXP に基づく MPLS 分類を受信します。
- 入力 DROP_ACL_DROP は、輻輳中に ASIC 上の Cisco Nexus 9272Q、9236C、および 92160YC-X スイッチで表示されます。ただし、これらのドロップはスイッチのパフォーマンスには影響しません。
- ICMP タイプまたはコードの一致を含む ACL を参照する QoS ポリシーはサポートされていません。
- TCP フラグの一致を含む ACL を参照する QoS ポリシーは、次の Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチでのみサポートされます。
  - Cisco Nexus 9200 プラットフォーム スイッチ
  - Cisco Nexus 9300-EX プラットフォーム スイッチ
  - Cisco Nexus 9300-FX プラットフォーム スイッチ
  - Cisco Nexus 9300-GX プラットフォーム スイッチ
  - Cisco Nexus 97xx-EX および 97xx-FX ライン カードを搭載した Cisco Nexus 9500 プラットフォーム スイッチ
  - Cisco NX-OS リリース 10.2(1q)F 以降、QoS 分類は N9K-C9332D-GX2B プラットフォーム スイッチでサポートされます。

トラフィック クラスの設定

ACL 分類の設定

既存のアクセス コントロール リスト（ACL）に基づいたパケットの照合により、トラフィックを分類できます。ACL で定義された基準によってトラフィックが分類されます。ACL キーワードの permit および deny は、照合時には無視されます。アクセス リストの一致基準に deny アクションが含まれる場合でも、そのクラスの照合では使用されます。

（注） ACL クラスマップ設定を表示するには、**class-map class_acl** コマンドを使用します。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match access-group name** *acl-name*

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_acl`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップモードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。（オプションが選択されておらず、複数の match ステートメントが入力される場合、デフォルトは **match-any** です。）
ステップ 3	**match access-group name** *acl-name* 例： `switch(config-cmap-qos)# match access-group name my_acl`	*acl-name* に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。**permit** および **deny** ACL キーワードは照合では無視されます。

例：ACL 分類の設定

パケットが QoS クラスマップによって照合されないようにするには、permit ステートメントで照合するパケットを明示的に指定する必要があります。ACL の末尾にある暗黙のデフォルト deny ステートメントは、残りを除外します。QoS クラス マップのアクセス リスト内で設定された明示的な deny ステートメントは、照合では無視され、次の例に示すように明示的な permit ステートメントとして扱われます。

次の A1、B1、および C1 の例では、すべて同じ QoS マッチング結果が生成されます。

- A1

```
ip access-list extended A1
  permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 any
  permit ip 172.16.128.0 0.0.1.255 any
  permit ip 192.168.17.0 0.0.0.255 any
```

- B1

```
ip access-list extended B1
  permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 any
  deny ip 172.16.128.0 0.0.1.255 any  /* deny is interpreted as a permit */
  permit ip 192.168.17.0 0.0.0.255 any
```

- C1

```
ip access-list extended C1
  deny ip 10.1.0.0 0.0.255.255 any   /* deny is interpreted as a permit */
 deny ip 172.16.128.0 0.0.1.255 any  /* deny is interpreted as a permit */
 deny ip 192.168.17.0 0.0.0.255 any  /* deny is interpreted as a permit */
```

QoS 一致 ACL の最後に明示的な DENY ALL を追加すると、QoS ACL がすべてのトラフィックを許可します。

次の D1 と E1 の例では、同じ QoS マッチング結果が生成されます。

- D1

```
ip access-list extended D1
  permit ip 10.1.0.0 0.0.255.255 any
  permit ip 172.16.128.0 0.0.1.255 any
  permit ip 192.168.17.0 0.0.0.255 any
 deny ip 0.0.0.0 255.255.255.255 any  /* deny is interpreted as a permit */
```

（注） この例の最後の行は、事実上 PERMIT ALL ステートメントになり、QoS ACL ですべてのパケットが許可されます。

- E1

```
ip access-list extended E1
    permit ip 0.0.0.0 255.255.255.255 any
```

DSCP ワイルドカード マスクの設定

DSCP ワイルドカード マスク機能を使用して、ACL と DSCP 値によって認識される IP フローのセットから複数の DSCP 値を分類します。IP 情報と DSCP 値の分類は、複数のパラメータを使用することで、より詳細な方法で行われます。この精度を使用すると、これらのフローをポリシングして残りのトラフィックを拒絶したり、さらに QoS 操作のために qos-group に割り当てたりすることで、これらのフローを処理できます。

（注） DSCP ワイルドカードマスク機能をサポートしているのは、Cisco Nexus 9464PX または 9464TX ライン カードを搭載した Cisco Nexus 9504 スイッチ、Cisco Nexus 9300-EX/FX/FX2/FX3 プラットフォーム スイッチだけです。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **ip access-list** *acl-name*
3. [*sequence-number*] { **permit** | **deny** } *protocol* { *source-ip-prefix* | *source-ip-mask* } { *destination-ip-prefix* | *destination-ip-mask* } [**dscp** *dscp-value* [*dscp-mask*]]
4. **exit**
5. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
6. **match access-list** *acl-name*

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 2	**ip access-list** *acl-name*
	例：
	`switch(config)# ip access-list acl-01`
	`switch(config-acl)`
		ACL コンフィギュレーション モードに入り、入力した名前を持つ ACL を作成します。

ステップ 3	[*sequence-number*] { **permit** | **deny** } *protocol* { *source-ip-prefix* | *source-ip-mask* } { *destination-ip-prefix* | *destination-ip-mask* } [**dscp** *dscp-value* [*dscp-mask*]] 例： `switch(config-acl)# 10 permit ip 10.1.1.1/24 20.1.1.2/24 dscp 33 30`	DSCP ワイルドカード ビット マスクに基づいてトラフィックを照合またはフィルタリングする ACL エントリを作成します。 *sequence-number* 引数には、1 ～ 4294967295 の整数を指定できます。 **dscp**: 特定の DSCP 値でパケットにマッチングします。 *dscp-mask*: DSCP 値の任意のビットと一致する DSCP ワイルドカードマスクを設定して、トラフィックをフィルタリングします。範囲は 0 ー 0x3F です。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-acl)# exit`
	`switch(config)#`
		ACL コンフィギュレーション モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name* 例：	*class-name* という名前のクラス マップを作成するか、そのクラス マップにアクセスし、クラス マップ モードを開始します。クラス マップ名には、ア

	コマンドまたはアクション	目的
	`switch(config)# class-map type qos match-any class_dscp_mask` `switch(config-cmap-qos)#`	ルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。

ステップ 6	**match access-list** *acl-name*
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# match access-list acl-01`
	`switch(config-cmap-qos)#`
		IP アクセス リストに基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。

例

次の例では、ACL はサブネット 10.1.1.0 からサブネット 20.1.1.0 に送信されるトラフィックを調べます。また、ACL は DSCP 33 のトラフィックと、マスク値 30 の後続の DSCP 値（33 ー 63）をチェックします。ACL は、以降の QoS 操作のためにこの ACL と一致するクラスマップに設定されます。

```
switch# configure terminal
switch(config)# ip access-list acl-01
switch(config-acl)# 10 permit ip 10.1.1.1/24 20.1.1.2/24 dscp 33 dscp-mask 30
switch(config-acl)# exit
switch(config)# class-map type qos match-any class_dscp_mask
switch(config-cmap-qos)# match access-list acl-01
```

DSCP 分類の設定

IP ヘッダーの DiffServ フィールドの DSCP 値に基づいてトラフィックを分類できます。標準の DSCP 値については、次の表を参照してください。

表 *2:* 標準の *DSCP* 値

値	DSCP 値のリスト
af11	AF11 dscp（001010）：10 進値 10
af12	AF12 dscp（001100）：10 進値 12
af13	AF13 dscp（001110）：10 進値 14
af21	AF21 dscp（010010）：10 進値 18
af22	AF22 dscp（010100）：10 進値 20
af23	AF23 dscp（010110）：10 進値 22
af31	AF31 dscp（011010）：10 進値 26
af32	AF40 dscp（011100）：10 進値 28

値	DSCP 値のリスト
af33	AF33 dscp（011110）：10 進値 30
af41	AF41 dscp（100010）：10 進値 34
af42	AF42 dscp（100100）：10 進値 36
af43	AF43 dscp（100110）：10 進値 38
cs1	CS1（precedence 1）dscp（001000）：10 進値 8
cs2	CS2（precedence 2）dscp（010000）：10 進値 16
cs3	CS3（precedence 3）dscp（011000）：10 進値 24
cs4	CS4（precedence 4）dscp（100000）：10 進値 32
cs5	CS5（precedence 5）dscp（101000）：10 進値 40
cs6	CS6（precedence 6）dscp（110000）：10 進値 48
cs7	CS7（precedence 7）dscp（111000）：10 進値 56
デフォルト	デフォルト dscp（000000）：10 進値 0
ef	EF dscp（101110）：10 進値 46

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **dscp** *dscp-values*
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any**	**match-all**] *class-name* 例：	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップモー

	コマンドまたはアクション	目的
	`switch(config)# class-map class_dscp`	ドを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **dscp** *dscp-values* 例： `switch(config-cmap-qos)# match dscp af21, af32`	dscp-values に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。標準の DSCP 値については、次の表を参照してください。 指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、DSCP クラス マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show class-map class_dscp
```

IP Precedence 分類の設定

IP ヘッダーの ToS バイト フィールドの優先順位値に基づいてトラフィックを分類できます。優先順位値を以下に示します。

表 *3:* 優先順位値

値	優先順位値のリスト
0 ～ 7	IP precedence 値
クリティカル	クリティカル優先順位（5）
flash	フラッシュ優先順位（3）
flash-override	フラッシュ オーバーライド優先順位（4）
即時	即時優先順位（2）

値	優先順位値のリスト
インターネット	インターネットワーク コントロール優先順位（6）
network	ネットワーク コントロール優先順位（7）
プライオリティ	プライオリティ優先順位（1）
routine	ルーチン優先順位（0）

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **precedence** *precedence-values*
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any**	**match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_ip_precedence`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップモードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **precedence** *precedence-values* 例： `switch(config-cmap-qos)# match precedence 1-2, 5-7`	*precedence-values* に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。値を次の表に示します。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、IP precedence クラス マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show class-map class_ip_precedence
```

プロトコル分類の設定

レイヤ 3 プロトコルのトラフィックでは、ACL 分類の照合を使用できます。

表 *4 : match* コマンドのプロトコル引数

引数	説明
arp	Address Resolution Protocol（ARP）
bridging	ブリッジング
cdp	Cisco Discovery Protocol（CDP）
dhcp	Dynamic Host Configuration（DHCP）
isis	Intermediate System to Intermediate System（IS-IS）

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **protocol** {**arp** | **bridging** | **cdp** | **dhcp** | **isis**}
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_protocol`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップ モードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **protocol** {**arp** | **bridging** | **cdp** | **dhcp** | **isis**} 例： `switch(config-cmap-qos)# match protocol isis`	指定したプロトコルに基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。指定したプロトコルに一致しないプロトコルについて照合するには、**not** キーワードを使用します。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、protocol クラス マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show class-map class_protocol
```

レイヤ 3 パケット長分類の設定

各種のパケット長に基づいてレイヤ 3 トラフィックを分類できます。

（注） この機能は IP パケットだけが対象です。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **packet length** *packet-length-list*
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_packet_length`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップモードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **packet length** *packet-length-list* 例： `switch(config-cmap-qos)# match packet length min 2000`	各種のパケット長（バイト）に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。値の範囲は 1 ～ 9198 です。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、packet length クラス マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show class-map class_packet_length
```

CoS 分類の設定

IEEE 802.1Q ヘッダー内のサービス クラス（CoS）に基づいてトラフィックを分類できます。この 3 ビットのフィールドは IEEE 802.1p で QoS トラフィック クラスをサポートするために規定されています。CoS は VLAN ID タグ フィールドの上位 3 ビットで符号化され、user_priority と呼ばれます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **cos** *cos-list*
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any**	**match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_cos`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップ モードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **cos** *cos-list* 例： `switch(config-cmap-qos)# match cos 4,5-6`	CoS 値のリストに基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。指定できる範囲は 0 ～ 7 です。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。 （注） Fabric Extender（FEX: ファブリック エクステンダ）接続して使用している場合、データ トラフィックを CoS 値 7 でマーク付けしないでください。CoS 7 は、ファブリック エクステンダを通過する制御トラフィック用に予約されています。

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、CoS クラス マップ設定の表示方法の例を示します。

```
switch# show class-map class_cos
```

FEX 用 CoS 分類の設定

（注） FEX の CoS 分類機能は、Cisco Nexus 9508 スイッチ（NX-OS 7.0(3)F3(3)）ではサポートされていません。

サービス クラス（CoS）フィールドに基づいてトラフィックを分類できます。

始める前に

FEX を設定する前に、**feature-set fex** をイネーブルにします。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **cos** *cos-list*
4. **exit**
5. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name* 例： `switch(config)# class-map class_cos`	class-name という名前のクラスマップを作成するか、そのクラスマップにアクセスし、クラスマップモードを開始します。クラス マップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大 40 文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **cos** *cos-list* 例： `switch(config-cmap-qos)# match cos 4,5-6`	CoS 値のリストに基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。指定できる範囲は 0 ～ 7 です。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。 （注） Fabric Extender（FEX: ファブリック エクステンダ）接続して使用している場合、データ トラフィックを CoS 値 7 でマーク付けしないでください。CoS 7 は、ファブリック エクステンダを通過する制御トラフィック用に予約されています。

ステップ 4	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 5	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、CoS クラス マップ設定の設定方法の例を示します。

```
switch# conf t
switch(config)# class-map type qos match-all cos6
switch(config-cmap-qos)# match cos 6
```

```
switch(config)# class-map type qos match-all cos1
switch(config-cmap-qos)# match cos 1
switch(config)# class-map type qos match-all cos2
switch(config-cmap-qos)# match cos 2
switch(config)# class-map type qos match-all cos3
switch(config-cmap-qos)# match cos 3
switch(config)# class-map type qos match-all cos0
switch(config-cmap-qos)# match cos 0
```

IP Real-time Transport Protocol（RTP）分類の設定

IP Real-time Transport Protocol（RTP）は、オーディオやビデオなどのデータを送信するリアルタイム アプリケーション用のトランスポート プロトコルです。RTP では一般的な TCP ポートや UDP ポートは使用されませんが、通常はポート 16384 ～ 32767 を使用するように RTP を設定します。偶数番号ポートを UDP 通信に使用し、1 つ上の奇数番号ポートを RTP Control Protocol（RTCP）通信に使用します。

Cisco Nexus 9000 シリーズ スイッチは、RDMA over Converged Ethernet（RoCE）v1 および v2 プロトコルの転送をサポートします。RoCE は UDP ポートを使用します。

上位層のプロトコルおよびポート範囲（UDP/TCP/RTP など）と一致するように **type qos class-map** で match ステートメントを定義する場合、システムは、たとえば同じポート範囲の UDP トラフィックと RTP トラフィックを区別できません。システムは両方のトラフィック タイプを同じように分類します。より良い結果を得るには、環境に存在するトラフィック タイプに一致するように QoS 設定を設計する必要があります。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **class-map** [**type qos**] [**match-any** | **match-all**] *class-name*
3. **match** [**not**] **ip rtp** *udp-port-value*
4. **match** [**not**] **ip roce** *udp-port-value*
5. **exit**
6. **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的

ステップ 1	**configure terminal**
	例：
	`switch# configure terminal`
	`switch(config)#`
		グローバル コンフィギュレーション モードを開始します

ステップ 2	**class-map** [**type qos**] [**match-any**	**match-all**] *class-name* 例：	クラス マップを作成するか、クラス マップにアクセスし、クラス マップ モードを開始します。クラ

	コマンドまたはアクション	目的
	`switch(config)# class-map class_rtp`	スマップ名には、アルファベット、ハイフン、またはアンダースコア文字を含めることができ、最大40文字まで設定できます。
ステップ 3	**match** [**not**] **ip rtp** *udp-port-value* 例： `switch(config-cmap-qos)# match ip rtp 2000-2100, 4000-4100`	RTP を使用するアプリケーションを対象とする UDP ポート番号の下限と上限に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。値の範囲は 2000 ～ 65535 です。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。
ステップ 4	**match** [**not**] **ip roce** *udp-port-value* 例： `switch(config-cmap-qos)# match ip roce 3000-3100, 6000-6100`	RoCE を使用するアプリケーションを対象とする UDP ポート番号の下限と上限に基づいてパケットを照合することによって、トラフィック クラスを設定します。値の範囲は 2000 ～ 65535 です。指定した範囲に一致しない値について照合するには、**not** キーワードを使用します。 （注） ip roce と ip rtp が同じポート番号と一致するように設定されている場合、interface-type コマンドを使用すると、ip rtp だけが表示されます。**show policy-map interface type qos** RTP と RoCE の両方にヘルプ文字列を使用すると、推奨範囲が表示されますが、（要件に基づいて）推奨範囲外の値を指定することもできます。

ステップ 5	**exit**
	例：
	`switch(config-cmap-qos)# exit`
	`switch(config)#`
		グローバル クラス マップ キューイング モードを終了し、グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。

ステップ 6	**copy running-config startup-config** 例： `switch(config)# copy running-config startup-config`	（任意）実行コンフィギュレーションをスタートアップ コンフィギュレーションに保存します。

例

次に、RTP クラス マップ設定の表示方法例を示します。

```
switch# show class-map class_rtp
```

分類設定の確認

クラスマップ設定を確認するには、**show class-map** コマンドを使用します。このコマンドによって、すべてのクラス マップが表示されます。

分類の設定例

次に、2 つのクラスのトラフィックについて分類を設定する例を示します。

```
class-map class_dscp
match dscp af21, af32
exit
class-map class_cos
match cos 4, 5-6
exit
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。